

同窓会会報

高知県立大学看護学部・看護学研究科

第31号

令和7年10月22日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



ごあいさつ

元同窓会会長 中山 洋子

短い梅雨を終え、7月から猛暑が続いた日本列島も秋の彼岸を迎えてやっと暑さが落ち着きました。この暑さに加えて、お米の高騰やトランプ関税、食品の値上げ等々、日々の生活に密着した問題が次々と起こり、台風や線状降水帯による災害にも見舞われてしまいました。皆様はこの夏をどのようにお過ごしでしたでしょうか。

高知女子大学看護学会50周年記念行事は、7月19日・20日に行われ、6年ぶりの対面での看護学部同窓会の総会・懇親会を7月19日、高知市の三翠園で行うことが出来ました。そして私も同窓会会長の任期を終え、野嶋佐由美先生に引き継ぐことが出来ました。コロナ禍に会長を引き受け、4年間、細々と活動させていただきました。タスキをつなぐことが出来たのは、皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。ご存じのように同窓会会長に就任した野嶋佐由美先生は長年にわたり、高知女子大学/高知県立大学で教鞭をとり、看護学部長、高知県立大学の副学長、学長として大学の発展に貢献してきました。2010年に高知県立大学看護学部同窓会を発案し設立したのも野嶋先生です。また、高知女子大学看護学会も牽引してきました。高知女子大看護学会は、50周年を機に「高知県立大学看護学会」に名称を変更し、本年7月の総会で看護学部同窓会も、「高知県立大学看護学部・看護学研究科同窓会」に名称を変更いたしました。新しい時代に入りました。ホームページもリニューアルされます。ここからまた10年、20年と時を刻みながら、看護学部・看護学研究科同窓会も看護学会も新しい発想のもとで歴史を創っていくことになるでしょう。

社会はAIの時代へと移行しつつあります。保健医療福祉が今後、どのように変わっていくのかは見通すことが出来ませんが、どのような時代状況にあっても看護専門職者が、ケアの本質を見失うことがないように願っています。看護学部・看護学研究科同窓会の皆様のご活躍と同窓会のますますの発展を期待しています。



ごあいさつ

新同窓会会長 野嶋 佐由美

このたび、7月の総会において同窓会会長を拝命いたしました、20期生の野嶋佐由美でございます。本年の総会において、同窓会の名称を「高知県立大学看護学部・看護学研究科同窓会」と改称することが決定されました。令和7年3月には、看護学研究科修士(健康生活科学研究科博士後期課程看護学専攻を含む)は431名に達し、大学院同窓会としての活動のみならず、同窓会の運営全般に広くご参加頂いております。こうした背景のもと、同窓会活動のさらなる発展を期して名称変更が行われました。

本同窓会は2010年7月に、高知女子大学看護学会が担っていた同窓会機能から独立し、より強化された組織として設立されました。以来、学会とは相互に助け合い、役割を分担しながら、共に発展を重ねてきました。高知女子大学看護学会創立50周年記念事業なども両組織が協働するからこそ実現することができました。皆さまからのご支援に心から感謝申し上げます。

私は、歴代会長である南先生、梶原先生、中山先生が大切に育ててこられた活動を継承し、さらに発展させていく所存です。母校と卒業生・修了生との絆は、同窓会や学会を通して深まり、それぞれのキャリア形成や役割を果たすうえで大きな力となっております。そのような実りあるエピソードは数多く存在しています。また、母校にとりましても、会員の皆様とのネットワークや活動は、教育・研究・社会貢献を推進するうえでかけがえのない財産であります。同窓会は看護学部・看護学研究科の発展に資する重要な役割を担うものと認識しております。

会員の皆様からのご意見を賜りつつ運営にあたり、実りある同窓会を築いてまいります。歴代の同窓会役員の皆様から、多大なご尽力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。



主な
内容

- ①同窓会会長ごあいさつ
- ②新同窓会会長ごあいさつ
- ③令和7年度同窓会総会報告
- ④4学年交流会

- ⑤高知女子大学看護学会創立50周年記念事業(祝賀会)
- ⑥藤田佐和先生の定年退職をお祝いする会



令和7年度 同窓会総会報告

令和7年度看護学部同窓会総会は、7月19日(土)に久しぶりの対面形式で開催されました。
三翠園「桜の間」を会場に、県内外から35名の同窓生の皆様にご参加いただき、盛会のうちに執り行われました。

議事次第

- 1) 報告事項
 - (1) 令和6年度活動報告
 - (2) 令和6年度決算報告
 - (3) 令和6年度会計監査報告
- 2) 審議事項
 - (1) 同窓会の名称変更について
 - (2) 会則の改正について
 - (3) 令和7年度活動計画案
 - (4) 令和7年度予算案
 - (5) 令和7年度同窓会役員について
 - (6) 後任役員承認について

◆同窓会の名称変更について

中山会長より、本同窓会は設立当初より、看護学部および看護学研究科の在学生・卒業生・教員によって構成され、ともに同窓会活動を行ってきたことが述べられました。また、看護学研究科修了生の皆様に、同窓会をより身近に感じていただき、活動にご参画いただけるよう、このたび名称を「看護学部同窓会」から「看護学部・看護学研究科同窓会」へ変更するとの提案があり、同窓会名称の変更が承認されました。

◆会則の改正について

中山会長より、同窓会の名称変更に加え、役員の種類および庶務の人数増員に伴う会則改正について提案がありました。役員の種類については、副会長が「高知県立大学看護学会長」となること、また庶務の人数が3名から4名に増員されることが承認されました。

令和6年度活動報告

1. 会議の開催
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催
 - 2) 懇親会 中止
 - 3) 会報発行
 - 4) 高知県立大学看護学会への活動支援
 - 5) 学生及び同窓生活動への支援
 - 6) 給付型特別奨学金の給付
 - 7) 緊急奨学金貸与
 - 8) ネットワーク強化

令和7年度活動計画

1. 会議の開催
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催
 - 2) 懇親会の開催
 - 3) 会報発行
 - 4) 高知県立大学看護学会への活動支援
 - 5) 高知女子大学看護学会創立50周年記念事業支援
(記念誌の発行)
 - 6) 学生及び同窓生活動への支援
 - 7) 給付型特別奨学金の給付
 - 8) 緊急奨学金貸与
 - 9) ネットワーク強化

※1: 看護学部長
※2: 看護学会名簿管理係兼

同窓会役員名簿(令和7・8年度)

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	野嶋佐由美	20期生	
副会長	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
	大川宣容※ ¹	35期生・博士7期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	飯田悠花	65期生	高知県立大学看護学部
会計監査	矢野智恵	38期生・修士1期生	高知学園短期大学
	野口裕子	51期生・修士18期生	幡多福祉保健所
庶務	田村文佳	49期生・修士15期生	医療法人おくら会芸西病院
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	池内 香※ ²	51期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
	神家ひとみ	54期生、修士17期生	高知県立大学看護学部

令和6年度 会計報告

令和6年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	12,760,965	12,760,965	0	
令和6年度終身会費	1,500,000	1,440,000	△60,000	R1入学部生28名のうち58名(98.3%) R2入学部生 既卒会費納入(15名)のうち51名納入(93.3%) R4入学部生1名 計96名
寄付金	200,000	159,000	△41,000	延べ21名
奨学金返済	0	0		
利息	65	1,936	1,871	
合 計	14,461,030	14,361,901	△99,129	

支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	30,000	2,004	27,996	役員会 等
同窓会会報発行費	440,000	440,000	0	会報発行2回
高知県立大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	0	0	令和5年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
学生および同窓生活動支援費 (1件20万円以内)	600,000	519,053	80,947	①日本老年看護学会第20回学術大会広告:433,000 ②学生監修半島災害ボランティアサポート:¥189,927 ③ガジャマダ大学との国際交流サポート:¥97,626 ④卒業生記念品:¥198,500
緊急奨学金費	535,800	0	535,800	
給付型特別奨学金費	2,000,000	0	2,000,000	
小 計	3,905,800	1,261,057	2,644,743	
役務費	1,200,000	444,706	755,294	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費 等
印刷費	200,000	58,080	141,920	封筒印刷 等
消耗品費	100,000	60,285	39,715	事務用品、A4用紙、宛名シール 等
報償費	200,000	76,500	123,500	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
小 計	1,700,000	641,571	1,058,429	
予備費	8,855,230	0	8,855,230	
合 計	14,461,030	1,902,628	12,558,402	

令和7年度への繰り越し金=収入の決算額 14,361,901円 - 支出の決算額 1,902,628円 = 12,459,273円

監査報告書
高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

監査結果 証拠書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和 7年 5月15日

会計監査

野田 真由美
矢野 智恵

令和7年度 予算案

令和7年度 高知県立大学看護学部同窓会予算案
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

収入の部

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	12,459,273	令和6年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
令和7年度終身会費	1,350,000	15,000円×90名=1,350,000円 学部生:80名 大学院生:10名
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
奨学金返済	0	
利息	2,000	
収入合計	14,011,273	

支出の部

費目	予算額	備考
会議費	30,000	役員会 等
同窓会会報発行費	440,000	会報発行2回
高知県立大学看護学会支援費	300,000	高知県立大学看護学会への活動支援費
高知女子大学看護学会創立50周年記念事業支援費	1,000,000	記念誌発行等への支援
同窓会総会・懇親会運営費	100,000	会場費、運営費等
学生および同窓生活動支援費	600,000	1件あたり上限20万円
緊急奨学金費	535,800	1年間1人分の学費として
給付型特別奨学金費	1,000,000	1件あたり10万円 (R2～5年度予算¥3,000,000、R6年度予算¥2,000,000) R2:5名、R3:3名、R4:0名、R5:1名、R6:0名
役務費	1,200,000	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費 同窓会名簿管理システム構築(¥650,000) 等
印刷費	200,000	封筒印刷 等
消耗品費	100,000	事務用品、A4用紙、宛名シール 等
報償費	200,000	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
予備費	8,305,473	
支出合計	14,011,273	

4学年交流会を開催しました

去る4月21日、本学部にて一回生から四回生までが参加する「四学年交流会」を開催しました。4学年交流会は、今年度新たに入学した一回生に、学校や学校生活について知ってもらい、先輩方との交流を深め、安心して生活を送れるようにする事を目的としたイベントです。

当日は、ビンゴゲームを取り入れた企画を行ないました。学校内にある体育館や実習室など様々な施設にビンゴ番号が記されたカードを配置し、参加者はグループ毎に校内を巡りながら番号を集めていきました。一回生は、先輩方に案内してもらうことで、学校の施設を実際に見学しつつ、日常生活についてや授業・試験・本学部特有の実習についてなどの話を直接聞くことが出来ました。また、一回生だけでなく二回生や三回生も、新たな学年となった不安についてや自身の経験を話すなど、先輩や後輩との距離を縮める機会となりました。施設を回らる中で自然と会話も生まれ、学年間の垣根を超えての交流が進んでいったように感じられました。

また、交流を深めるだけでなく、ビンゴゲームには豪華景品や全員もらえる参加賞など魅力的な景品を用意していたため、景品獲得を目指して各グループとも協力し合い、笑顔や歓声があふれる場面も多く見られました。

今回の交流会は、一回生にとっては大学生となり環境の変化に不安を感じる学生もいる中で学校生活について知る貴重な機会となると共に、上級生にとっても後輩へ経験を伝える大切な場となりました。この会を通して、学年間のつながりがより深まり、学部全体の雰囲気があたかくなった交流会でした。





高知女子大学看護学会創立50周年記念事業 50周年記念祝賀会を開催しました。

高知県立大学看護学会創立50周年、誠におめでとうございます。

この学会は、私が高知女子大学を卒業して2年後に創立されており、自身の経歴と重ね合わせ、看護の道に入ってもう半世紀の時間が流れたのだと感慨深いものがあります。この50年間で、看護系大学は289校(課程数は307校)に増え、日本看護系学会協議会に所属する学会は51学会を数えます。高知県立大学看護学科は大学教育の先駆者であり、学会活動においても看護界を牽引してきたと思います。公立大学とは言え、地方の大学で長きにわたって学会活動を支えるには多くのご苦勞があったと思います。学会を運営し、活動を支えてくれたすべての関係者の皆様に敬意と感謝を表します。

日本は2040年に向けて医療や看護、福祉の危機的な状況が危惧されています。この学会には、高齢化・人口減少が加速していく今後の社会において、人々の健康と暮らしを守り、穏やかな人生の最期を迎えられるような看護モデルとシステムを探索し、高知県から全国に発信してほしいと思います。高齢化や人口減少の先進県として様々な経験や事例が蓄積されているのではないのでしょうか。一卒業生としてこれからも応援していきます。

(19期生 岡谷恵子さん)



高知女子大学看護学会が50周年を迎えましたこと、誠におめでとうございます。「歴史を踏まえて未来の看護学をデザインする」というまさに50周年にぴったりのテーマのもと、諸先生方のご講演に刺激され、祝賀会では旧交を温める楽しい1日となりました。高知県立大学は日本で最初に大学で看護教育を開始した大学として「看護学大事典(日本看護協会編)」に紹介されており、看護学の発展に先駆的な役割をはたしてきた一方、同窓生・修了生、また地域の方々とのつながりを開設当初から大切にされており、それが高知県立大学の文化であり、伝統なのだとか感じています。100年後もそうあって欲しいと願います。

自分が年齢を重ねると相まって、お世話になった先生方も次々退職されていくなか、こうした節目の会でお会いでき、また、後輩の皆様のご活躍を知ることには大変嬉しいことです。今後も大学の益々の発展と皆様のご健康を心よりお祈りしております。

(博士1期生 中西純子さん)



本学会の思い出は、学生時代に和井兼尾先生の学会長挨拶の録音記録を行ったことに始まる。

私は学会に懸けられた先生の熱い思いを感じ、先輩方の臨床実践や研究の発表に魅せられていた。会場で山崎智子先生から「今に見ていろ、僕だって！やね」と声をかけられ、卒後の看護実践の歩みを確かめ合うこの場の一員になることを促された。卒論では山崎美恵子先生に「入浴行動が身体に及ぼす影響について」の本学会での発表、雑誌への投稿など、看護者としてのスタートを支えていただいたと思う。

もう一つは、20年後、専門看護師活動を暗中模索で始めていた時に、本学会で「看護倫理の実践」を話すという大きな宿題だった。臨床倫理の分析枠組みを探し、現象を言葉にして看護実践の意味を確認することへのチャレンジをさせていただいた。

本学会は、これまでも、これからも全国で活躍する卒業生に絶妙なタイミングで、「看護」を考える刺激を与えてくれるのだろう。

(28期生 小迫富美子さん)





祝賀会への参加を申し込んだところスピーチを依頼されました。私は押し入れに保管していた大学時代の箱を開け、45年前の学生時代を思い出しました。当時の写真や教科書、ノートを見ると看護学科は忙しかつたけれど充実した4年間であったと再認識しました。祝賀会では皆さんをタイムマシンに乗せて、学生時代の懐かしい思い出を話させていただきました。そして祝賀会では、2つ嬉しいことがありました。1つ目は同級生の森下安子さんが高知県看護協会の会長に就任したことを伺い、お祝いの気持ちを直接伝えることができたこと、2つ目は2年生の時の担任であった山崎美恵子先生にお会いしたことです。先生には卒業論文のご指導もいただきました。先生は「皆さんにお会いしたくて、今日は絶対に来ようと思っていたのよ。」と力強く語ってくださり、先生の強い愛情を感じて大変嬉しい気持ちになりました。改めて、祝賀会は人とのつながりの大切さを感じる一日となり、私にとって心に残る再会の場となりました。



(26期生 宮崎恵美さん)

高知女子大学看護学会創立50周年、おめでとうございます。

学会で配布された資料を拝見し、本学会が日本看護科学学会よりも6年早く発足していたことを知り、当時の先生方の先見性、看護学の確立と発展を目指す強い志を改めて感じました。そして、そのような先生方が築き上げてこられた大学で学べたことを誇らしく思います。また、運営委員として学会の企画・運営に携わらせていただき、社会の変化をキャッチし、さらに将来を予測しながら会員の皆様に新たな知の刺激を提供することの難しさと、その面白さを学ばせていただきました。そして、学会運営を通して偉大なご功績を残された先輩方や各領域で高名な先生方と接する機会にも恵まれ、その中で得られた学びもたくさんありました。このように、本学会は、私にとって多くの学びとつながりを与えてくれた存在です。これからも、本学会が同窓生にとって安心して集い、交流し、互いに学び合える場として、70年、100年と継続していくことを願っています。



(29期生・博士1期生 長戸和子さん)

高知女子大学看護学会(高知県立大学看護学会)、創立50周年、誠にありがとうございます。私(則村)は2007年4月から2009年3月まで高知女子大学大学院看護学研究科の修士10期生として在籍し、修了後から東京都八王子市にある駒木野病院という単科の精神科病院でCNSとして働いています。祝賀会では、先生、先輩、同期、後輩と温かく、楽しい交流を持つことができ、学会では新たな学びを得て、力が充実した状態で帰京することができました。私にとって、高知女子大学看護学会に参加することや皆様と交流をもつことは、CNSとしての原点を、自分の在り方を思い起こさせてくれる機会であり、とてもありがたく感じております。祝賀会で「60代でも若い」という言葉を聞き、『まだまだ精力的に挑戦し続けなければいけない』と、最近は落ち着いた雰囲気を出していた自分を見直した次第です。高知へ年に1回、行けるかどうかの身ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(当院で活躍してくれている高知県立大学の卒業生たちと一緒に。
右から清水頌平、谷綾乃、岡田佳乃、柳本麻理子、則村良)



前列左から
山崎美恵子先生、中山洋子先生
後列左から
35期生大川宣容さん、北浦暁子さん、
増野園恵さん

高知女子大学看護学会は創立50周年という大きな節目を迎えました。記念祝賀会には、全国各地から多くの同窓生の皆さまにご参集いただき、世代を超えて看護の歩みを振り返り、未来を語り合う貴重なひとときを共有することができました。

看護学部・看護学研究科の教育・研究・実践の場は、時代とともに大きく発展してまいりました。その歴史は一人ひとりのたゆまぬ努力とご活躍によって築かれてきたものです。全ての同窓生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

そして今、私たちには次の時代に向けた使命が託されています。医療が多様化・高度化する中で、「人を思いやる心」と「確かな専門性」を礎に、社会の変化に応じた新たな看護の形を切り拓いていくことが求められています。同窓会のつながりは、その挑戦を支える大きな力となります。これからも、看護の可能性を次世代へとつなげていけるよう、皆さまとともに歩んでまいりたいと思います。

(高知県立大学看護学部・看護学研究科同窓会 大川宣容副会長)



藤田先生の定年退職をお祝いする会

ごあいさつ

感謝の意を込めて

28期生 藤田佐和



2025年3月末日、36年間過ごした高知女子大学・高知県立大学を定年退職いたしました。同窓生の皆様、大学関係者の皆様、地域の皆様に支えられてこの日を迎えられたことを心より感謝申し上げます。

4回生のクリスマスパーティーの出し物で「私たちの未来の姿」をテーマでスタンツをした時、同級生に指名された私の役は、看護師でも保健師でも養護教諭でもなく、妊婦で結婚してお仕事を辞めている役でした。卒業して7年後、松本女里先生から、「あなた高知にもどってこない」とお電話をいただきました。同級生に相談すると、「私たちの学年は女里先生に多大な迷惑をかけたので、〇〇ちゃんがクラスを代表して母校に〇〇するように」という旨の助言をもらいました。あれからどれくらい経過したのかは定かではありませんが、母校で働けたからこそ、山崎智子先生、山崎美恵子先生、松本女里先生、野嶋佐由美先生をはじめ、同窓生の先輩・後輩の方々に支えられて定年退職を迎えられたと感謝の気持ちで一杯です。母校の看護学を探究する教育、看護実践を大切にする教育、一人ひとりの学生の学びの過程を見守り、学生の個性を見極め、力が発揮できるようなオーダーメイドの教育、先輩と後輩、学生と教員、在学生と卒業生・修了生、という人と人とのつながりを大切にしていくなかで、とりあえず、大学だから4年はね・・・と同級生に言われてスタートした教員生活が定年まで辿り着きました。その間、母校から巣立った卒業生や修了生が国内外で活躍している姿を嬉しく頼もしく感じるとともに、非常勤講師や実習関連施設・研究協力施設の関係者としてご協力・ご支援をくださったことに感謝しております。

学内では様々な役割を経験し、視野が広がり、思考が深まり、教育研究者としても人としても成長させていただきました。南裕子学長時代には、看護学専攻博士前期課程と博士後期課程、共同災害看護学専攻博士課程の2専攻3課程の大学院改編に看護学研究科長として携わらせていただきました。看護学部長時代には、Covid-19への対応を“学生さんの健康を守るとともに学びを止めない”を目標に、困難な状況でも前向きに努力する当時の同僚の先生方の力と実習関連施設の方々のご尽力を得て、全員で取り組んだことを懐かしく思います。私の専門分野はがん看護学です。がん看護専門看護師教育課程の教育研究に携わり、また、中国四国がんプロ養成コンソーシアムの幹事校としても微力ながらも活動してきました。2017年には、日本がん看護学会学術集会を高知で、学内の先生方、県内の看護職の方、修了生のご支援を得て、4か所の会場をWebとバスでつないで開催し、盛会に終えられました。定年までの活動は、高知県立大学に所属する教員であったから成しえたかと改めて感謝しております。現在は看護学研究科の特任教授として院生や地域の関係者の皆様とがん看護を楽しんでいます。

今後は、同窓生として母校や高知県立大学看護学部・看護学研究科同窓会、高知県立大学看護学会の発展を見守り、これまで培ったことで社会に還元できることに取り組んでいきたいと思っています。長きにわたりお世話になりありがとうございました。

藤田佐和先生の定年退職をお祝いする会



藤田先生に寄せられたメッセージ

このたびは定年退職を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。博士後期課程においてご指導いただいた一人として、深く感謝申し上げます。学生時代から折に触れてお話を聴いていただき、研究や仕事に迷う中でも、先生は温かく、的確にご助言くださいました。体調や仕事の状況を理解したうえで寄り添っていただけたことは、大きな支えでした。自らの進路に迷った時期もありましたが、先生はがん看護に携わる者として教育と研究を続ける意義を、その姿勢を通して示してくださいました。その背中を見て、先生のようにには到底及ばないものの、これからは地元のがん医療の発展に少しでも貢献したいと思うようになりました。

高知県立大学に着任してからは、愛鳥ナナちゃんのお話や、洗練されたご容姿からは想像できない先生のお姿を拝見できたり、がんプロ関連の仕事をご一緒できたりと、新たな思い出が増えました。困難に直面したとき寄り添い、時に背中を押してくださった先生の存在は、これからも私にとっての導きとなる存在であり続けます。これからは、どうぞご自身の時間を大切にされ、健やかで充実した日々をお過ごしください。先生のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(博士15期生 青木早苗さん)



藤田先生、このたびは定年退職おめでとうございます。定年退職をお祝いする会に参加し、先生のこれまでのご功績に触れ、改めて尊敬の念を抱きました。先生にご指導頂きましたことに感謝申し上げます。当日は夕方より、がん看護学領域修了生の会『アストラル』主催の祝賀会が開催されました。アストラルとは、“星のような”“星の世界の”という意味で、私たち修了生一人ひとりが、星のように輝いて星のように遥か彼方を見定めながら、一步一步着実に目標の実現を目指して取り組んでいくという意味を込めて藤田先生が名付けてくださいました。がん看護学修了生は昨年度までで博士前期課程62人、博士後期課程20人となり、事例検討会や交流会などアストラルの活動を通して修了生の交流が活発に行われています。藤田先生の定年退職をお祝いする会夜の部の開催は、県内外の44人の修了生の賛同を得て、思いを集めた手作り感あふれる温かい会となりました。先生への熱い思いを形にするために修了生自ら飾りつけたバルーンが会の進行に伴い次々割れ、ドキドキ感を伴った刺激的な時間となったほか、修了生からは今だから言える先生とのエピソードが語られ、笑いもあるとても和やかな会となりました。今後の先生のますますのご活躍をお祈りするとともに、修了生との交流が末永く続くことを願っております。

(45期生・修士6期生 北添可奈子さん)



前列左端 北添可奈子さん



前列左から 竹内奈々恵さん、藤田先生、小松美帆さん、門田麻里さん

藤田先生、定年退職おめでとうございます。先生とご一緒させていただいた時間の中で一番謎だと思っていたことは、これだけ膨大な仕事をどうやってこなしていけるのだろう、寝る時間やご自分のための時間はどうやって捻出されているのだろうということでした。『1日24時間という時間だけは誰にでも平等』と言われていましたが、密かに先生だけには72時間ぐらいあるのではないかと今でも思うほどです。どんなにお忙しい中でも悩んだ時や困った時には時間をとって話を聞いてくださり、解決に向けて一緒に考えてくださいました。そして、最後の最後まで諦めず粘り強く取り組むことの大切さも教えてくださいました。先生には学生として、そして部下として多くのことを教えていただいたり経験させていただき感謝しています。それらは今私が活動していく上での強い支えとなっています。改めて、ありがとうございます。

退職されたとはいえ、これからもご活躍の場を広げ、今までと同様にお忙しい日々を過ごされると思いますが、時には美味しいものを食べたりのんびりと過ごす時間も確保しつつお過ごしください。先生、これからもよろしく願っています。

(47期生・修士12期生 門田麻里さん)

ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。
誠にありがとうございました。
(敬称略 令和7年10月1日現在)

岡田溪子様(7期生)
宮武陽子様(元教員)
山田 薫様(26期生)
新谷ミサヲ様(15期生)
西山純子様(33期生)
長田暁子様(博士19期生)
乾 由美様(修士24期生)
野村美紀様(43期生・博士12期生)
津島ひろ江様(14期生)

看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。

今年度の予定が決定しています。
ぜひ、ご参加ください。

高知県立大学のホームページにも詳細が掲載されていますので、ご覧ください。



高知県立大学看護学部

看護相談室

看護相談室は、12の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。

家族看護学	* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708 I. ケア検討会 (18:30~20:30) : 6/17 (火) , 11/18 (火) II. リカレント教育 (18:30~20:30) : 4/22 (火) , 5/20 (火) , 7/22 (火) , 10/21 (火) , 12/16 (火) , 2/3 (火)
精神看護学	* 田井研究室 ☎ 088-847-8723 I. ケア検討会 6/19(木), 10/21(火), 12/18(木), 3/19 (木) 19:00~21:00 II. リカレント教育・交流会 未定 ↑10/21は開催方法・時間に変更可能性あり
がん看護学	* 青木研究室 ☎ 088-847-8713 I. ケア検討会 6/21(土) , 12/20(土) 13:30~15:30 II. リカレント教育 調整中
クリティカルケア看護学	* 大川研究室 ☎ 088-847-8703 I. ケア検討会 6/17(火) , 2/10(火) または17(火) 18:30~20:00 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
慢性看護学	* 内田研究室 ☎ 088-847-8720 I. 交流会 7/20 (日) ハイブリッド開催予定 II. ケア検討会・リカレント教育 調整中
小児看護学	* 高谷研究室 ☎ 088-847-8614 I. ケア検討会 11月~12月中旬に1回、R8.2月中旬に2回目を検討中 II. 交流会 7/21 (月) 9:30~11:30 ハイブリッド開催
母性・助産看護学	* 嶋岡研究室 ☎ 088-847-8707 I. ケア検討会 11/7 (金) 18:30~20:00 II. 交流会 5/29 (木) 18:30~20:00
地域看護学	* 小澤研究室 ☎ 088-847-8722 I. ケア検討会 6/6(金) , 8/5(火) , 11/7(金) , 12/15(月) II. 交流会 未定 III. リカレント教育 6/13(金) , 8/1(金) , 12/22(月) , 2/19(木)
在宅看護学	* 川上研究室 ☎ 088-847-8718 I. ケア検討会 6/26(木) , 2/19(木) 18:30~20:30 II. 交流会 12/12(金) 18:30~20:00
老人看護学	* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705 I. ケア検討会 6/17 (火) , 11/11(火) 18:30~ II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
看護管理学	* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714 I. ケア検討会 6/20 (金) , 11/7 (金) 18:00~20:30 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
災害・国際看護学	* 木下研究室 ☎ 088-847-8762 I. ケア検討会 未定 II. 交流会 未定

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



ホームページアドレス

高知県立大学看護学部・看護学研究科同窓会
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango-og/>

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax: 088-847-5524
メールアドレス: kango-g2020@cc.u-kochi.ac.jp

編集後記

二〇二〇年以来、久しぶりに対面での同窓会総会を開催し、懐かしい笑顔と再会できたことを心から嬉しく思います。今回は高知女子大学看護学会創立50周年記念祝賀会も行われ、世代を越えた交流が生まれ、同窓生の絆の深さと広がりを改めて実感しました。それぞれの時代を歩んできた仲間たちが、ひとつの場に集い、思い出を語り合いながら未来への希望を共有する姿は、まさに同窓会の意義そのものだと感じます。これからも、つながりを大切にしながら、同窓会が皆さまの思い出と未来をつなぐ場所となるよう、心を込めて活動が続けてまいります。

池添・池内・飯田